

◇全館共通項目は、中央図書館を含めた中心館が共通の意識を持って取り組んだ事業。  
 ◆館の重点評価項目は、豊栄図書館が重点的に取り組んだ事業。 中心図書館名：豊栄図書館

中心図書館名：豊栄図書館

区分	施策・事業名	概要	実施結果	評価			
				自己評価	外部評価		
課題解決型図書館	◇全館共通評価項目 課題解決のためのレファレンスサービスの充実	・市民に身近な課題解決のためレファレンス(調査・相談)サービスを充実させ、迅速かつ的確な情報提供を行う。	・レファレンス件数(所蔵調査件数を含む)は目標を上回った。 ○レファレンス件数 8,778件	・レファレンスや所蔵調査の件数は増加した。 ・夏休み中は、「子どもの本のへや」カウンターを夏休み自由研究の相談ブースとして図書館職員を配置している。子どもだけでなく親子からの自由研究の資料の相談や読書感想文のお勧め本などの相談(レファレンス、所蔵調査)を受けた。 ・今後もレファレンスを迅速に対応できるように事例研究を行うなどさらにスキルアップに努めたい。	3 大変評価する。 2 ある程度評価する。 1 評価できない。	88.9% 11.1% 0.0%	○夏休み期間の自由研究などカウンターを設置しての相談対応は、大変意義深い活動である。子どもだけでなく、これを契機に親世代や成人への利用促進が図られる効果もある。継続するべきである。 ○夏休みの相談はとてよいことだと思う。読書感想文のおすすめなどもニーズに合わせてよい試みだと思う。継続してほしい。 ○子どもたちが何か調べたいと思った時に本だけでなく、職員からアドバイスを受けられるのは非常によいことだと思う。
	◆館の重点評価項目 多様な利用に応じた図書館サービスの提供	・公民館事業へ図書館資料の提供等を行う。	・豊栄図書館では、豊栄地区公民館主催事業に合わせてブックリストを提供した。 コミュニティビジネス入門 ゆりかご学級 幼児期家庭教育学級 ユースセミナー	・豊栄図書館のとなりにある豊栄地区公民館、松浜図書館と同じ建物内にある北地区公民館の事業に合わせ、職員が出向いたり、図書資料の提供を行い読書活動の振興や図書館利用のPRができた。	3 大変評価する。 2 ある程度評価する。 1 評価できない。	77.8% 22.2% 0.0%	○社会教育施設同士の連携は必要であり、地域社会に認知度を高めるためにも大変よい。図書館職員が出向いてこそ、図書館利用が増えると思う。どんどんPRしてもらいたい。 ○公民館に出向いての資料提供は、市民へのPRともなり、図書館機能を生かした生涯学習への貢献活動として高く評価する。利用者の反応等もフィードバックしてもらえると良い。 ○乳幼児期の子どもや保護者に働きかけていくことは、その後の読書活動に大きく影響していくものと思われる。広く他の公民館事業とも連携してもらいたい。
特色ある地域づくり図書館	◇全館共通評価項目 地域資料の体系的な収集と活用	・各区を代表する人物・自然風土・産業等の地域コレクションの形成と展示を行う。	・北区を中心とした郷土資料、行政資料の収集に努めた。豊栄図書館では福島潟関連資料、松浜図書館では水俣病(熊本含む)関連資料の収集に力を入れている。 ○H25年度蔵書冊数 10,887冊 ○H26年度蔵書冊数 11,023冊 ○H27年度蔵書冊数 11,299冊 ○H28年度蔵書冊数 11,680冊	・郷土資料、行政資料の収集を進めながら有用性を判断し整理など進めた。 ・郷土資料の利用についてはやや伸び悩んでいるようである。 ・地域の歴史を調べたいとき、地域の歴史探訪の資料を調べたいとき、また郷土出身の偉人の足跡を調べるときに利用されている。	3 大変評価する。 2 ある程度評価する。 1 評価できない。	44.4% 55.6% 0.0%	○地道な活動であるが、地域に根ざした独自性を高める上で有効である。利用の拡大に向けた工夫を望む。 ○他の地区の方から、「豊栄の図書館は郷土資料が多いので良かった」と聞き誇らしく感じた。 ○地域の郷土資料は図書館に足を運べば手にとって見ることができるようにし、学校等との連携も図ってほしい。 ○資料の収集とともに、郷土史研究者等が高齢化していく中で、残すべきものがきちんと残るよう努力してもらいたい。 ○地域資料の存在を広く伝えて、もっと多くの方々に利用してもらおう努められたい。
	◆館の重点評価項目 地域の声を反映した図書館運営	・図書館協議会を開催し、図書館の事業についての理解と関心を深めていただくとともに、話し合われた内容を図書館の運営に活かす。	・図書館協議会を年2回開催 第1回 平成28年7月27日(水) 第2回 平成29年2月23日(木) ・「図書館へのたより」受理件数 9通(10件)	・図書館協議会で委員の皆様から忌憚のない意見をいただくことができた。 ○読み聞かせを実施している施設への支援 ○松浜図書館での閲覧スペースの拡大要望 ○図書館側のPR不足 ・「図書館へのたより」など利用者の意見をできるだけ尊重し、改善できるものは改善した。 ○雑誌付録の取扱い表示 ○利用者意見5年分の展示	3 大変評価する。 2 ある程度評価する。 1 評価できない。	66.7% 22.2% 11.1%	○地域の意見を幅広く取り入れ、反映していく姿勢は評価出来る。地域住民から愛され、親しまれている図書館であると実感する。今後も努力し続けていただきたい。 ○松浜図書館について、本を読む(勉強)スペースが少なく利用の割に大変狭い。もっと多くの方が利用できるよう、より機能的図書館が必要であるとの声もある。 ○図書館をよくして行く姿勢が強く感じられる。 ○建物の素晴らしさだけでなく、取組や内容の良さで評価される図書館になることを望んでいる。 ○図書館協議会はもっと活動を広げて行くべきだと思う。(ex.他の図書館見学等を企画し、所属図書館について見直しの話し合いを深める等)
子ども・市民融合型図書館	◇全館共通評価項目 子どもの読書環境の整備	・ブックスタート事業を継続するとともに、赤ちゃんタイムを拡大し、うちどく(家読)を推進する。	・ブックスタート事業 518人に実施 参加率89.8% ・うちどく(家読)読書ノートの配布冊数 383冊 ・うちどく(家読)読書ノート(ぬりえ)の配布枚数 807枚	・ブックスタート事業では乳幼児期から読書が身近に感じられるきっかけづくりができた。保護者からは「普段見られない子どもの反応がブックスタートで見られた」など好意的な意見をいただいている。 ・うちどく(家読)読書ノートの配布、学校訪問時にうちどく(家読)の普及を促し、子育て世代の親子からも多く図書館を利用していただいた。	3 大変評価する。 2 ある程度評価する。 1 評価できない。	77.8% 22.2% 0.0%	○すばらしい実践である。子どもの健全育成の、まさにスタートの時期に、親子を支援していく仕組みとして、今後も定着させてほしい活動である。 ○ずっと継続してもらいたい。 ○ブックスタートを楽しみにしている親も多い。インターネットで本を買う時代に図書館の有用性をアピールし、足を運びやすい図書館になっていくようにと思う。 ○教科書が揃えられており、興味をもってもらえるような配架がなされていた。 ○うちどくの推進は、学校と共にもっと進めて行って欲しい。
	◆館の重点評価項目 学校図書館支援センター事業 子どもの読書活動推進につながる事業等の実施	・学校図書館支援センターが、学校・地域・関係機関と連携し、学校図書館の活用がさらに活性化されるよう取り組みを進める。 ・職員・ボランティアによる「おはなしのじかん」をはじめとする各種事業等の実施。	・学校図書館支援センターによる学校図書館訪問及び業務相談等を実施した。 ・おはなしのじかん(職員・ボランティア)、わらべうたのじかん、夏休み事業(一日子ども図書館員、かがく実験室)を実施した。 ○おはなしのじかん参加者数 928名 ○わらべうたのじかん参加者数 95名 ○一日子ども図書館員参加者 8名 ○かがく実験室参加者数 13名	・学校訪問などにより、学校図書館は着実に「読書センター」「学習センター」「情報センター」の機能を増していると考えている。 ・おはなしのじかん、わらべうたのじかんなど参加者には大変好評である。夏休み事業も楽しんでいただいた。さらに参加者増に向けてPR等に努めたい。	3 大変評価する。 2 ある程度評価する。 1 評価できない。	88.9% 11.1% 0.0%	○学校図書館の支援活動が非常に活発に行われている点に感銘を受けた。地域の児童の健全育成に大いに貢献していると思う。今後の取組の継続に期待する。 ○図書館の発信、特にわらべうたは提供している図書館があまりないのでぜひ続けてもらいたい。 ○学校図書館支援センターにより、各学校の活動も活発に取り組まれている。 ○学校図書館支援センターからアドバイスをいただき、学校図書館の充実がはかられた。 ○「おはなしのじかん」参加者の中にはリピーターも多い。 ○子どもたちを読書に引き込む工夫された企画が実施されていた。
市民参画と協働型図書館	◇全館共通評価項目 ボランティアや教育機関・民間団体等との協働	・ボランティア・教育機関や民間団体等と一緒に事業を行い、市民との協働を推進する。	・ボランティア団体との協働の取組実施 おはなしのじかん、春のおはなしリレー、夏のおはなし会、夏のおはなし会、冬のおはなし会、冬のおはなし会、わくわく体験夏まつり、石塚さんの昔ばなしを楽しむ会、大人のためのおはなし会、クリスマス会 ○ボランティア活動者数 336名	・ボランティア団体との協働は予定どおりに実施でき、参加者にも概ね好評であった。	3 大変評価する。 2 ある程度評価する。 1 評価できない。	88.9% 0.0% 11.1%	○ボランティア活動の場の提供だけでなく、協働の仕組みとして実践されている点は大いに評価できる。 ○社会全体の変化などで、難しい面もあるが、町内、行政(区役所)など、もっと声かけなどの啓発がかかせない。 ○参加者はもちろん楽しめるが、なによりボランティアも励みになっている。 ○継続して行ってきたとても意義のある活動だと思う。 ○北区の中で格差が広がらないよう工夫していただきたい。
	◆館の重点評価項目 ボランティア養成講座の実施 ボランティア交流会の実施	・ブックスタートボランティア養成講座と、読み聞かせボランティアステップアップ講座を実施する。 ・ボランティア交流会を実施する。	・ブックスタートボランティア養成講座 参加者3名 ・読み聞かせボランティアステップアップ講座 参加者7名 ・北区図書館ボランティアグループ交流会 参加団体5団体	・ブックスタートボランティア養成講座、読み聞かせボランティア養成講座の参加者からは今後も続けて欲しいとの意見も多い。他館とも調整しながら今後も開催して行き、ボランティアの裾野を広げて行きたい。	3 大変評価する。 2 ある程度評価する。 1 評価できない。	77.8% 11.1% 11.1%	○ボランティアの育成は、ボランティア活動の発展にとって重要な要素であるが、各種の活発な活動の新たな人材の意欲の喚起につながる好循環となっていると思われる。 ○講座などの開催は続けていただきたい。ボランティアグループの区交流会は色々な話が聞けて、市全体の交流会より良いと思う。 ○ボランティアの次世代育成は課題である。 ○読み聞かせボランティアのニーズは年々多くなっているが、それにボランティアの人数・活動が追いついていない。今後もぜひ続けてほしい。 ○今後もボランティアの方を学校現場へどんどん派遣していただきたい。 ○働いている人も、そうでない人も参加できるような体制作りが必要だ。